

～つくばみらいの魅力、発信します！～

# 第10回記念 つくばみらい市文化祭



市民特派員  
やまだあき  
山田亜希さん

市では、市民協働のまちづくりを推進するため、市の魅力などを市民目線で発信してもらう、市民特派員とともに、広報紙の取材・編集を行っています。

今回は、「第10回記念 つくばみらい市文化祭」での機織り体験をご紹介します。



## 昔ながらの機織りを体験

きらくやまふれあいの丘世代ふれあいの館、すこやか福祉館、谷和原公民館にて10月31日(土)と11月1日(日)の両日、文化活動の成果を発表する場として、第10回記念つくばみらい市文化祭が開催されました。

晴天となった2日間。野外では、発表前に練習するグループや談笑している方などたくさんの方で賑わっていました。日々の成果が飾られている展示スペースはどれもが素晴らしく、プチ体験ができ魅力を知ることができました。

伊奈手織り「彩の会」の代表岡田一枝さんにお話をお聞きすることができました。

岡田さんは小学校教員を退職後、「衣食住」にこだわったことをやってみたいと思い、土浦市立博物館で機織り教室に

通い、農家の女性たちが行っていた昔の機織りを忠実に再現した、綿の栽培から糸紡ぎ、草木染め、織りなどの全工程を学びました。岡田さんは「織りは根気のある仕事がたくさんある。たて糸を機にかけるまでが大変だが、魅力的。物を無駄にしないといった昔の人たちの知恵や工夫が詰まっており、家族のためにどんな着物を作ろうか考える温かい心も感じた」と話します。

現在、会長を務めるつくばみらい市文化協会に、岡田さんは平成11年の設立当時から携わっています。機織りをはじめ、さまざまなジャンルの文化に触れてきた岡田さんは、文化には特別な思い入れがあるそう。「文化は物やお金では満たされない、人の心を満たしてくれるものです」

彩の会の機織り機は、100年以上前のもの。たくさんのお物を作りだし、温もりを届け続け、今なお活躍しています。ものづくりは人をつくる。会場には彩の会の皆さんや来場者の笑顔があふれ、温かな気持ちで満たされていました。

